

## 世界を知り、日本を知る

### 第一回：常夏の国、カンボジア

チョムリアップ・スオ！（こんにちは！）

みなさん、はじめまして。日本語教師をしている柳沼と申します。今月から3回、エッセーを担当することになりました。拙い文章ですが、少しでも楽しんでいただけたら幸いです。

もともと会社員として働いていた私が転職し、初めての職場として選んだのはカンボジアの日本語学校でした。私が勤めた学校は、シェムリアップにある無料の日本語学校です。私が生まれて初めてカンボジアに足を踏み入れたのは2010年の5月下旬。その前にカンボジアに行ったことはなく、クメール語（カンボジア語）もぜんぜん話せませんでした。「どうしてカンボジアに？」とよく聞かれますが、「仕事のご縁があったから」、としかいいようがないんです…。もちろん、仕事はその学校についていろいろ



学校の中庭

知って安心したうえで決めました。無謀に行けばいいというものではないと思います。でも逆に何も知らず考えすぎなかったから一歩踏み出せたのかなとも思っています。

学校でわたしが担当したクラスの学生は約20人。年齢はだいたい20代前半で、もちろん全員クメール人（カンボジア人）でした。彼らは1年かけて日本語を勉強し、卒業後はガイドやホテルなどで日本語を使って働くことを目標としています。授業は午前中は50分授業が4コマ、午後は80分授業が1コマ。月曜日から金曜日まで授業があり、土日は休みです。また光栄な(?)ことに、私は一番の年長先生という理由で校長の職を任命されてしまいました。え～、大出世！？こういったこと



小旅行！はい、チーズ！

は海外ならではののかもしれませんね。ほとんどの学生は通いはいえ、10人ほどの寮生もいます（先生も学校に宿舎があります）。彼らにもし何かあったら、私の責任です。こうして新米先生の目の回るような忙しい日々の始まりとなりました。

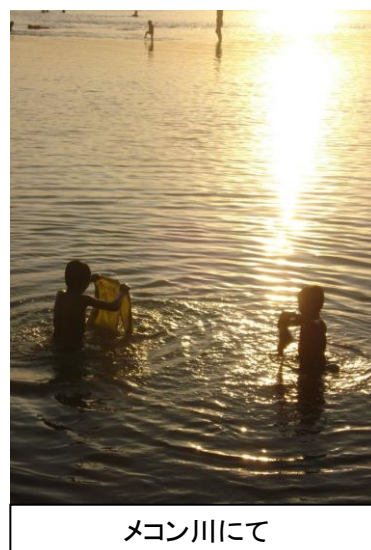
### カンボジアについて

カンボジアでは9世紀に始まったクメール王朝が花開き、12世紀前半に有名なアンコールワットが建てられました。しかしその後1970年から内戦が始まり、混乱の時代が続きます。やっと内戦が終わり、荒廃したシェムリアップの町で始まったのが観光業、そしてガイドになるための日本語教育でした。現在は開発が進み、どんどん日系企業が進出しているそうです。2014年のカンボジア

の GDP は165. 5億 USドル。少しずつよくなっているとはいえ、経済的にはまだまだ。でもカンボジアの若者の顔には悲壮感がまったくありません。昨日よりも今日、今日よりも明日。少しずつ生活がよくなっていく、よくしていく、という強い希望に満ちているのです。GDP は単なる数字にすぎない、人々が未来に希望を持てるということは、こんなにも素晴らしいんだと初めて知ることができました。アンコールワットは今もクメール人にとって特別な場所となっています。長い間、精神的にはもちろん、経済的にも多くのクメール人を救ってきたのです。

### 心がけたこと

私がカンボジアで心がけていたのは、その国の文化や習慣を批判しないことでした。日本人を案内するガイドとして必要なマナーは厳しく指導しましたが、それ以外は日本の習慣で意見をいわずに、できるだけ受け入れるように心がけていました。覚えているのは洗濯の話。カンボジアではバイクは必需品で、一人1台という家も珍しくありませんが、洗濯機を持っている家はごくわずか。それを不思議に思って学生に聞いてみたことがありました。「みなさん、家にバイクはたくさんありますが、洗濯機はありませんね。どうしてですか。洗濯機はバイクより高いですか。」「いいえ。手で洗うのはカンボジアの習慣です。それに洗濯機よりずっときれいになります。」「・・・そうですか。」今もそうなのかな？手でほとんど洗ったことのない私にはちょっと不思議な話でした。



また卒業生と一緒にご飯を食べている時、カンボジアのお化けアープ(女の妖怪)について話したことがあります。「きょう学生からアープの話を聞きましたよ。」「先生、私はアープを見たことがあります(真剣な顔)。私の村に住んでいた女の人はアープでした。」「へ～。その女の人はどうなりましたか。」「わかりません。たぶん村の人に殺されたと思います。」「・・・。」「ほんと？ほんとの？？」と心の中で叫びましたが、とりあえず黙ってました。戦争の影響もあつてか、お化けや妖怪の話がとても多かったです。

またある日突然、警察がやってきて、学校の前の道を舗装するから金を出せ、と言われたこともありました。「どうして？そんなの役所のお金でやればいいじゃない！」と反発しましたが、よく聞けばこの国では当たり前のこと。まったく腑に落ちませんでしたが、日本の常識で判断しても仕方ありません。郷に入っては郷に従え。結局お金を払うことになりました。

### 学生との思い出

忙しいのは新米先生だけではありません。学生たちも日々大忙し。無料の学校に来るくらいですから、もちろん家は裕福ではありません。本来は働き手として家を支えなければならないのに、家族にお金をもらって昼は勉強をしているため、夜や週末は家事やアルバイトに追われている学生

がほとんどでした。もちろん学校からは毎日大量のプレゼント(宿題)が出されています。無料の学校ですから、成績が悪ければ校則で退学になることもありました。



市場の様子

忘れられない思い出があります。週末の夜、同僚とナイトマーケットを見に行ったとき、クラスの女子学生に会いました。聞けばその店は家族のもので、昼は勉強し、夜はここでお土産を売っているということでした。彼女の店の商品をいくつか手にとって眺めていると、私に「先生、プレゼントです。どうぞ。」と渡してくれます。私はあわてて断りましたが彼女も引きません。私はすっかり困って言いました。「ソッチャンさん。わたしはソッチャンさんの先生ですが、ソッチャンさんの日本語はまだまだです。です

から、わたしはまだプレゼントがほしくないです。ソッチャンさんの日本語が上手になったとき、プレゼントをおねがいします。」そのときの彼女の顔が忘れられません。わたしは彼女に思いがしっかり届いたのを感じました。次の日から彼女は大きく変わりました。必死に勉強するようになり、積極的にクラスをまとめてくれるようになりました。さらにお盆やお正月になると、「先生は一人で寂しいと思うから」と私を家に招待してくれました。あのとき、どうして彼女を変えられたのかははっきりわかりません。でもとても印象的なできごととして記憶に残っています。

また、苦い思い出もあります。ある寮生が無断外泊をしました。この学校には遠方から来る学生のために寮もあり無料で住むことができましたが、規則が厳しく、1度でも破った場合は退寮となる決まりでした。わたしは無断外泊をした学生に退寮を言いわたしましたが、寮を出たら住むところがない、学校を辞めるしかないと泣いています。内心困り果てましたが、新米校長が長年守られたルールに簡単に例外をつくるわけには行きません。「今日、すぐ寮を出てください。」と重ねて



卒業式の直前の記念撮影

いうと、クラスメートが全員職員室にやってきて「先生、お願いします。彼を退寮させないでください。」と頭を下げはじめました。私は内心ほっとしました。彼を許すきっかけができたからです。彼にもう一度チャンスをあげることにしましたが、最終的に私は卒業の1か月前に彼を退学させることになりました。彼の規則破りは改まることなく、退寮、退学まで行ってしまったからです。もうすぐ卒業という時期で、卒業証書も卒業文集もすでに出来上がっていました。たぶん私は最初の規則破りを許すべきではなかった。あのときの自分の弱い心が彼の退学を引き起こしたような気がしてならないのです。

## カンボジアの生活をふりかえって



卒業パーティーにて「かんぱ〜い！」

2012年5月に私は契約を無事に終了し、日本に帰ることになりました。カンボジアでは忘れられない思い出がたくさんあります。バス旅行、試験終了パーティー、プノンペンでの日本語能力試験、スピーチコンテスト、カラオケ大会、卒業式。毎年私の誕生日にはサプライズでパーティを開いてくれました。学校に泥棒が入ったり、落雷で電流が逆流して電化製品がすべて壊れたり、雨期に洪水で学校が浸水したり。あ、あと交通事故にも2回遭いました。

カンボジアに住んで分かったことは、自分の力は本当に小さいということです。多くの人に支えられ、感謝した2年間でした。そして文化や習慣がちがうということは、たとえば、私のうちととなりのうちの味噌汁の味がちがうのと同じようなものだと思うようになりました。とても大切なこと。でも全てではありません。

目を閉じるとカンボジアの景色が思い出されます。青い空とやしの木。一面の水田、赤と白の蓮の花。日曜日の朝はすこし早起きして、自転車でアンコールワットの前にあるカフェまで行きました。チェックしなければならない学生たちの宿題を抱えて。見上げるとアンコールワットの彫像は、クメール人だけではなく、たった2年しかいない外国人にもやさしい微笑をなげかけてくれました。どうですか、少しカンボジアに興味をもっていただけでしょうか。もしそうならとてもうれしいです。